

1.3. 育苗タイプ別成長比較実験(終了)

1. 目的

育苗タイプの異なる苗木について、どのタイプが造林事業に対して有利であるかを究明するものである。

2. 場所

山形県最上郡戸沢村大字吉神田字杉の台国有林古口事業区
9林班わ小班内

3. 面積

0.334a (6区画)

4. 期間

自 昭和48年
至 昭和55年 } 7年

5. 実験地の概要

位置図は48年度報告書のとおり。

6. 生育状態について

成長量調査結果は「表-1」、年度別成長経過は「図-1.2.3.」のとおりである。

植栽後7生育期間を経過した現在、さし木苗が根元径、樹高とも最も良好な成長を示し、実生苗1-1-2が最も遅れている。又7ヶ年成長率では、ポット苗が最も良く、今後もこの様に推移していくものと思われる。

7. むすび

本実験の結果から、実生苗1-1-2は育苗経費が多くなるにもかかわらず、成長の遅れが目立つため除外しなければならない。その他の5種類では、どれが良いとはいえないが、規格に合った実生苗1-1および2-1は、育苗経費が安く、成長にも影響を与えないので、大変有利であるといえる。

するもので

実生苗
に推移して

遅れが目立
に合った表
にあるといえ

「表-1」

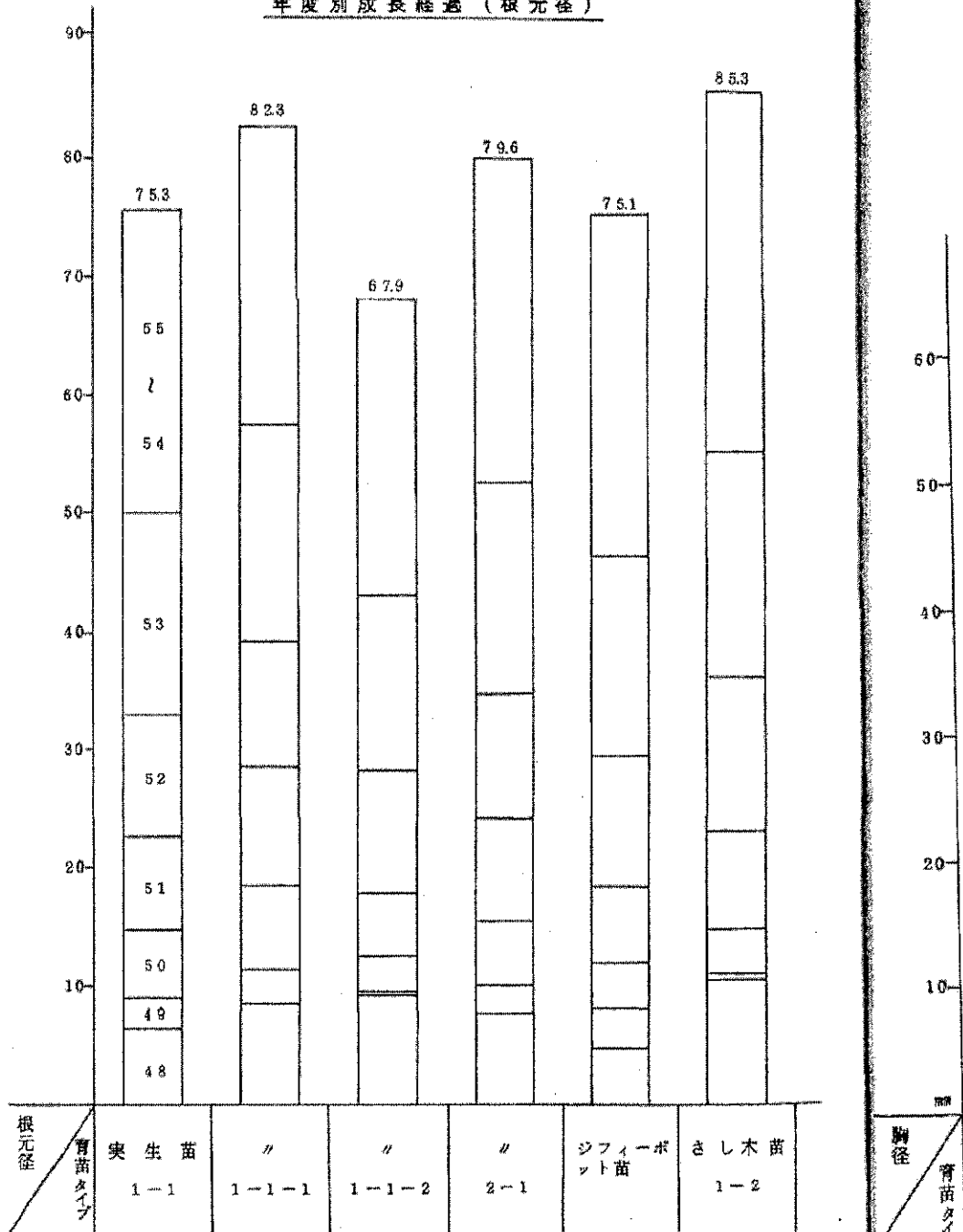
育苗タイプ別成長量調査表

育苗 タイプ	48年度		53年度			54年度			55年度			今年度成長量			今年度成長率			設定以降 7ヶ年成長量			設定以降 7ヶ年成長率		
	根元径	樹高	根元径	胸高直径	樹高	根元径	胸高直径	樹高	根元径	胸高直径	樹高	根元径	胸高直径	樹高	根元径	胸高直径	樹高	根元径	胸高直径	樹高	根元径	胸高直径	樹高
実生苗 1-1	6.5	36.6	49.9	25.9	238.6	75.3	31.4	258.4	25.4	5.5	19.8	50.9	21.2	8.3	6.88		221.8	105.85					606.0
" 1-1-1	8.6	45.2	57.3	33.3	261.4	82.3	39.8	272.1	25.0	6.5	10.7	43.6	19.5	4.1	7.37		226.9	857.0					502.0
" 1-1-2	9.3	42.4	43.0	23.9	225.2	67.9	30.1	245.9	24.9	6.2	20.7	57.9	25.9	9.2	5.8.6		203.5	630.1					480.0
" 2-1	7.8	40.8	52.5	29.0	262.5	79.6	36.4	270.0	27.1	7.4	7.5	51.6	25.5	2.9	7.1.8		229.2	920.5					561.8
ジフィーポット	4.8	33.6	46.3	24.2	249.8	75.1	34.5	273.3	28.8	10.3	23.5	62.2	42.6	9.4	7.0.3		239.7	1464.6					713.4
さし木苗 1-2	10.5	57.2	55.1	29.2	253.6	85.3	40.6	278.2	30.2	11.4	24.6	54.8	39.0	9.7	7.4.8		221.0	712.4					386.4

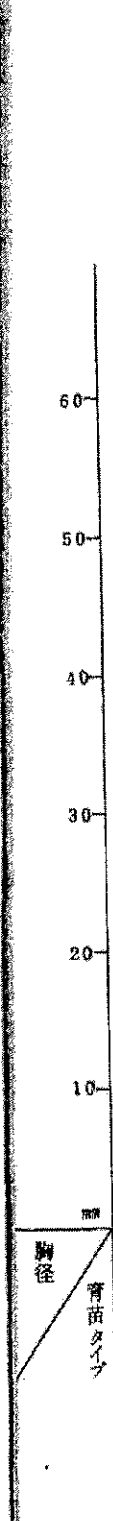
注：今年度成長量率の根元径は2ヶ年分である。(53~55年度)

〔圖-1〕

年度別成長経過 (根元径)

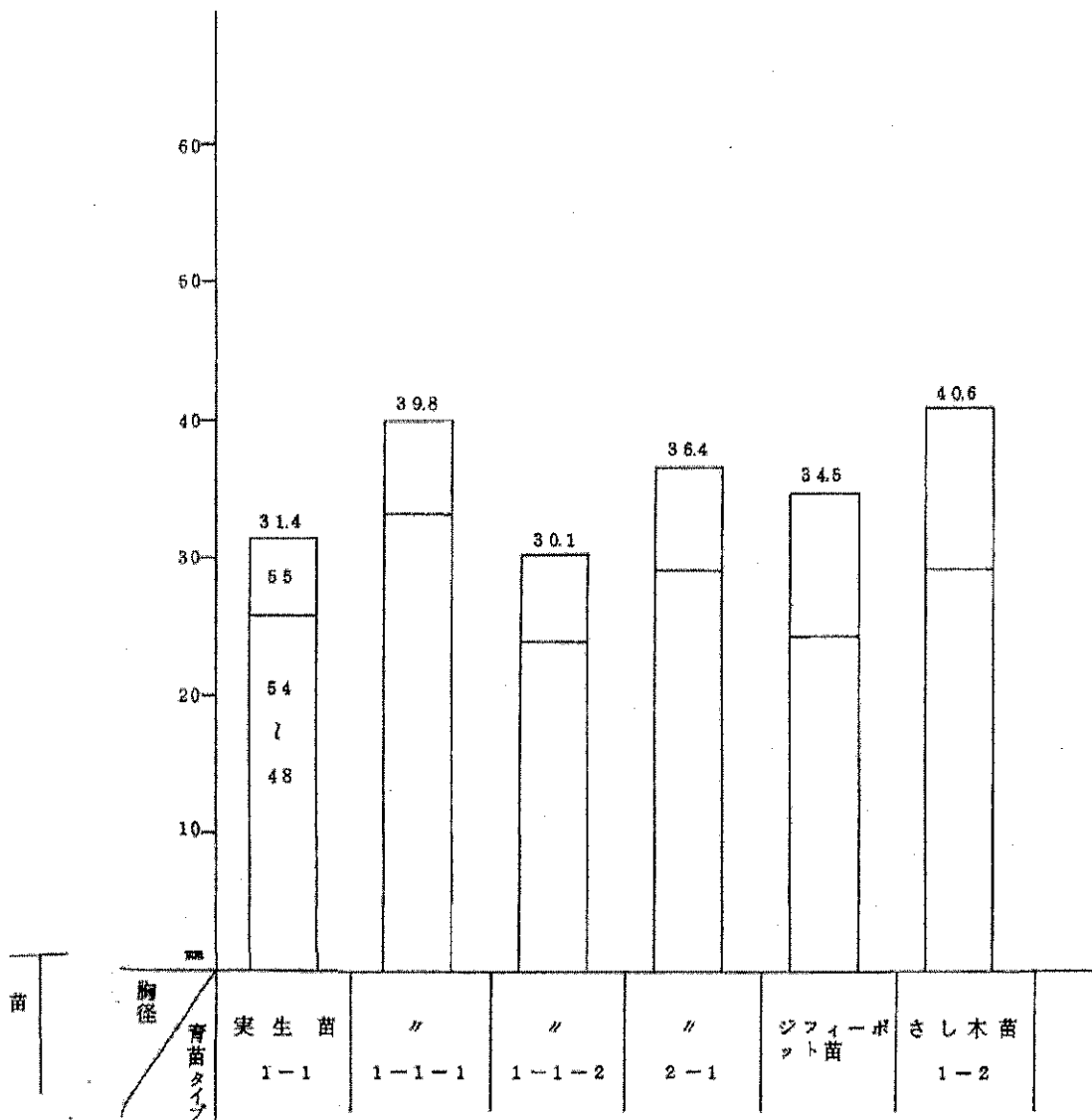


〔圖-2〕



「図-2」

年度別成長経過（胸高直径）



「図-3」

年度別成長経過（樹高）

